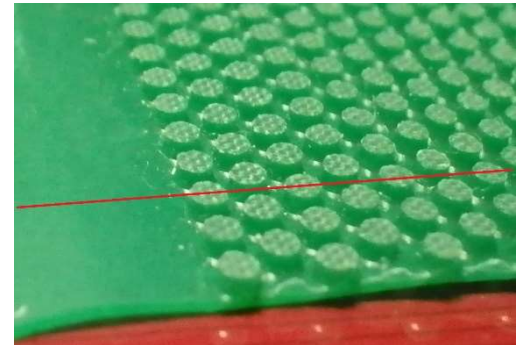


両方のキャタピラーが無くなった戦車が来ました。
翼をもがれた鳥のようなもので、全く走りません。
どうすれば、キャタピラーが作れるのか？

今回材料に選んだのは、卓球のラケットに貼る
ラバーです。
弾性とザラザラ感が、なんともキャタピラー向き
ではないですか。

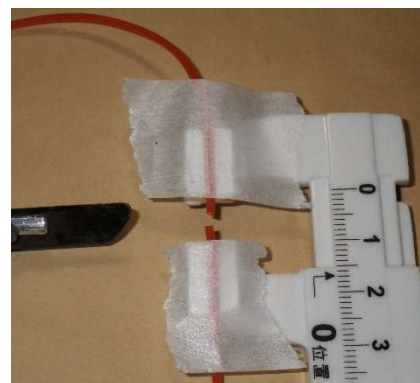
ラバーを赤線の様に、車輪の幅に合わせて、
キャタピラー 一周の長さに切ります。
それを輪にして、接着剤で貼り合わせます。
ラバーの端の薄くなっている所で重ねると、厚みがほぼ均一に出来ました。
接着剤は、ボンドのG17（ゴム系）を使いました。



この輪を戦車にはめてみましたが、なんと回っている内に、外れてしまいます。
実際のキャタピラーを見ると、内側に「魚の背びれ」の様などいうか、
「恐竜の背中」の様などいうか、凸凹があり、車輪の溝と噛み合って、
外れるのを防いでいるのです。



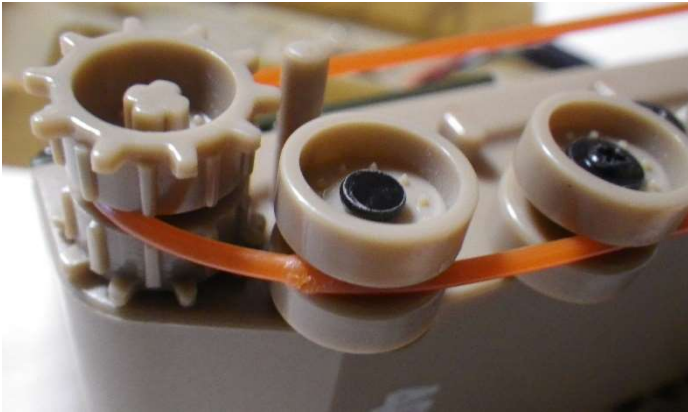
この背びれをどうやって作れば良いのか？
悩んだ末に思いついたのは、プーリーベルトなどに使うバンコードです。
車輪の溝を測った結果、1.5ミリφならば、収まりが良いようです。
バンコードを熱で溶着、輪にする事にしました。溶着には、手作りの変な溶着器を使います。



- (左写真) 上段は百均で購入した、プラスチック製のノギスを加工しています。
半田ごての先は、カッターの刃を加熱できるようにしています。
- (右写真) ノギスの先の溝にバンコードを仮止めし、熱したカッターの刃を挟んで
バンコードの先を溶かし、一気に溶着します。

バンコードの輪を車輪にはめるとこうなります。

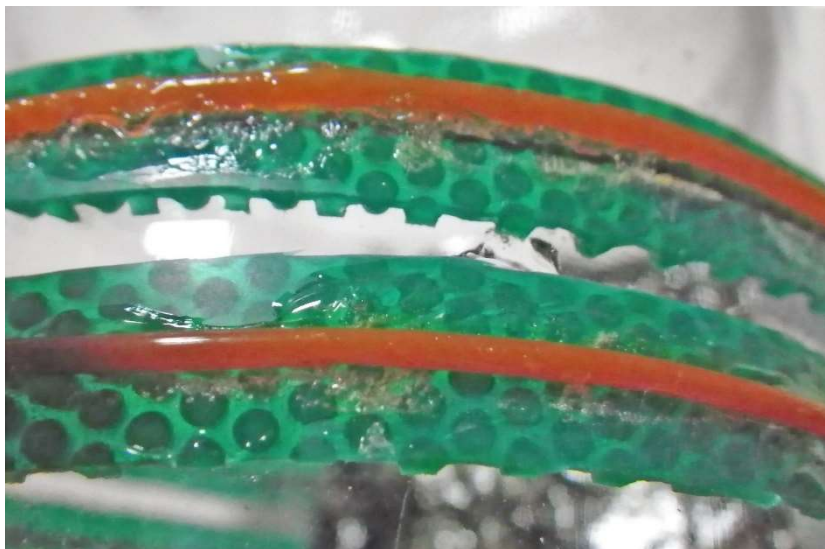
こうして作った茶色のバンコードと緑色のラバー、2本の輪です。



さて、緑の輪の内側に、茶色の輪を接着しなければなりません。
どちらも適度に伸縮しますから、やや太めの丸い筒に、ラバーの輪を裏返しにはめ、
その上にバンコードの輪をかぶせます。

今回使ったのは、丁度手ごろの太さの、味付け海苔の缶でした。

接着剤は、セメダインのスーパーXを使ってみました。



ようやくキャタピラーが完成し、
戦車は問題なく走ってくれました。

砲塔の黄色い部分は、折れていたもので接着し、
熱収縮チューブで補強・化粧したものです。
砲撃音と共に、先端で黄色いLEDが点滅
します。

(以上)